

事項	おうとう、うめ、あんずの樹種複合園では開花期から6月上旬までの病虫害防除の薬剤散布を共通化できる																																									
ねらい	おうとう、うめ、あんずを栽培している樹種複合園での病虫害防除は、樹種ごとの薬剤散布により多大な労力と経費を要している。おうとうを基準に、開花期から6月上旬までの4回散布を3樹種に共通させた薬剤散布の体系を組み立てたので参考に供する。																																									
指導	<p>1 青森県五戸町におけるおうとうの平年開花日とあんずの平年落花日は5月2日、うめの平年落花日は5月1日である。おうとうの開花日とうめ、あんずの落花日がほぼ一致することから、おうとうの「開花直前」とうめ、あんずの「落花直後」を共通防除の開始時期とする。</p> <p>2 共通防除を実施する際は、おうとうの灰星病対策を重点に置き、散布時期はおうとうの生態に合わせる。</p> <p>3 共通防除時期以外は、各樹種の慣行防除を行う。</p> <p>4 おうとう、うめ、あんずの樹種複合園での病虫害防除の薬剤散布体系</p>																																									
参考内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">月</th> <th rowspan="2">旬</th> <th colspan="2">散布時期</th> <th rowspan="2">防除剤</th> </tr> <tr> <th>対象病虫害</th> <th>対象病虫害</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">4月</td> <td>下</td> <td>開花直前 灰星病</td> <td>落花直後頃 灰星病 灰色かび病</td> <td>ロブラール水和剤 1,500倍</td> </tr> <tr> <td>上</td> <td>満開5日後 灰星病</td> <td>落花10日後頃 黒星病 灰星病</td> <td>バイコラル水和剤 2,000倍 又はオーシャイン水和剤 3,000倍</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">5月</td> <td>中</td> <td>ハマキムシ類</td> <td>ハマキムシ類</td> <td>ファイブスター顆粒水和剤 2,000倍</td> </tr> <tr> <td>下</td> <td>満開15日後 灰星病 炭疽病</td> <td>落花20日後頃 黒星病</td> <td>オーソサイド水和剤80 800倍</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">6月</td> <td>上</td> <td>ハマキムシ類</td> <td>ハマキムシ類 アブラムシ類</td> <td>ダイアジノン水和剤34 1,000倍</td> </tr> <tr> <td>下</td> <td>満開25日頃 灰星病 炭疽病 褐色せん孔病 アブラムシ類</td> <td>落花30日頃 黒星病</td> <td>オーソサイド水和剤80 800倍</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>ダイアジノン水和剤34 1,000倍</td> </tr> </tbody> </table>			月	旬	散布時期		防除剤	対象病虫害	対象病虫害	4月	下	開花直前 灰星病	落花直後頃 灰星病 灰色かび病	ロブラール水和剤 1,500倍	上	満開5日後 灰星病	落花10日後頃 黒星病 灰星病	バイコラル水和剤 2,000倍 又はオーシャイン水和剤 3,000倍	5月	中	ハマキムシ類	ハマキムシ類	ファイブスター顆粒水和剤 2,000倍	下	満開15日後 灰星病 炭疽病	落花20日後頃 黒星病	オーソサイド水和剤80 800倍	6月	上	ハマキムシ類	ハマキムシ類 アブラムシ類	ダイアジノン水和剤34 1,000倍	下	満開25日頃 灰星病 炭疽病 褐色せん孔病 アブラムシ類	落花30日頃 黒星病	オーソサイド水和剤80 800倍					ダイアジノン水和剤34 1,000倍
月	旬	散布時期				防除剤																																				
		対象病虫害	対象病虫害																																							
4月	下	開花直前 灰星病	落花直後頃 灰星病 灰色かび病	ロブラール水和剤 1,500倍																																						
	上	満開5日後 灰星病	落花10日後頃 黒星病 灰星病	バイコラル水和剤 2,000倍 又はオーシャイン水和剤 3,000倍																																						
5月	中	ハマキムシ類	ハマキムシ類	ファイブスター顆粒水和剤 2,000倍																																						
	下	満開15日後 灰星病 炭疽病	落花20日後頃 黒星病	オーソサイド水和剤80 800倍																																						
6月	上	ハマキムシ類	ハマキムシ類 アブラムシ類	ダイアジノン水和剤34 1,000倍																																						
	下	満開25日頃 灰星病 炭疽病 褐色せん孔病 アブラムシ類	落花30日頃 黒星病	オーソサイド水和剤80 800倍																																						
				ダイアジノン水和剤34 1,000倍																																						
期待される効果	おうとう、うめ、あんず栽培において防除作業効率が高まり、また3樹種間で薬剤ドリフトのリスクが軽減される。																																									
利用上の注意事項	<p>1 本資料は平成21年3月2日現在の農薬登録に基づいて作成した。</p> <p>2 農薬を使用する場合は、必ず最新の「農薬登録情報」(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)を確認すること。</p> <p>3 おうとうの開花日とうめの落花日が7日以上開く場合は適用しない。</p> <p>4 「おうとう、うめ、あんず」の複合園における主要病虫害を対象に組み立てた散布体系であり、かいよう病やオウトウハマダラミバエ等の発生動向に十分注意する。</p> <p>5 かいよう病やオウトウハマダラミバエの発生がある場合は、平成21年おうとう病虫害防除暦及びうめ・あんず病虫害防除暦（青森県特産果樹病虫害防除暦編成会議編）又は平成21年度農作物病虫害防除指針（青森県農作物病虫害防除指針編成会議編）に基づいて個別散布を行う。</p>																																									
担当部署 (担当者名)	青森県農林総合研究センターりんご試験場 (小笠原博幸、村井智子)	県南果樹研究センター	対象地域 県下全域																																							
発表文献等	東北農業研究 第59号 平成16～20年度 農林総合研究センターりんご試験場県南果樹研究センター試験研究成績概要集																																									

【根拠となった主な試験結果】

表1 おうとう、うめ、あんずの生態（平年値：過去20か年）

（平成20年 青森農林総研りんご試県南果研セ）

生態	おうとう（佐藤錦）	うめ（豊後）	あんず（八助）	散布時期
開花日 落花日	5月2日 —	— 5月1日	— 5月2日	開花直前
満開5後 落花10日後	5月10日 —	— 5月11日	— 5月12日	満開5日後

表2 共通防除体系における病害の防除効果

（平成16～17年、19年 青森農林総研りんご試県南果研セ）

樹種	区	灰星病(花腐れ) 発病率(%)			発病果率(%)									葉害
					灰星病			黒星病			灰色かび病			
		平16	平17	平19	平16	平17	平19	平16	平17	平19	平16	平19		
おうとう	共通散布	0.2	1.0	0.3	0	0	0.2	—	—	—	—	—	無 無	
	慣行散布	0.2	0	0	0	1.0	0.7	—	—	—	—	—		
	無散布	2.2	13.3	17.0	0	10.3	25.8	—	—	—	—	—		
うめ	共通散布	0	0	—	—	0	0	0.4	5.8	0	1.0	0	無 無	
	慣行散布	0	0	—	—	0.3	—	0.3	8.2	—	1.7	—		
	無散布	0	0	—	—	4.0	—	5.9	11.0	—	26.3	—		
あんず	共通散布	0	0	—	—	3.3	0.3	—	—	0.3	0.5	0.7	無	
	無散布	0	0.7	—	—	6.0	24.0	—	—	—	16.3	—		

- (注) 1 散布方法：平成16年と17年には動力噴霧機、平成19年にはスピードスプレーヤを使用
 2 共通散布区：指導参考内容に示した散布体系、慣行区：各樹種の病害虫防除暦に準じて散布
 3 おうとう基準の「開花直前」から「満開25日後」まで以外の時期は、それぞれの樹種の防除暦に従って散布
 4 平成19年のおうとう灰星病（発病果）の無散布区は5月21日にオーソサイド水和剤80を散布したほかは無散布、また、あんず灰星病（発病果）の無散布区は6月中旬以降無散布
 5 供試品種：おうとう；「佐藤錦」、「高砂」又は「北光」、うめ；「豊後」、「節田」、あんず；「八助」、「新潟大実」

表3 共通防除体系におけるハマキムシ類の防除効果

（平成20年 青森農林総研りんご試県南果研セ）

樹種	区	巻葉数（個）	果実被害	
			調査果数(果)	被害果数(果)
おうとう(高砂)	共通散布	0	—	—
	無散布	137	—	—
うめ(豊後)	共通散布	0	880	0.5
	無散布	0	1,351	2.1
あんず(新潟大実)	共通散布	0	—	—
	無散布	0	—	—

- (注) 1 各樹種1樹供試
 2 4月16日にミダレカクモンハマキの卵塊を1樹につき3卵塊接種
 6月11及び12日に巻葉数、7月7日及び9日に果実被害を調査
 3 おうとうの「満開5日後」の5月7日にファイブスター顆粒水和剤、「満開15日後」の5月16日と「満開25日後」の5月26日にダイアジノン水和剤34を各樹種に散布